

教育目標	1 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。
	2 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。
	3 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。
重点目標	① 全校登山やアジアアフリカ難民支援運動など岳陽の学びの4本柱を通じて、主体的に生きる生徒を育てる。
	② 基礎学力の向上を図るとともに、様々な進路選択に対応する学びを保障する。
	③ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校をつくる。

		具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導	日々の学習を含め、土曜補習や模試などに主体的に取り組む姿勢を支援し、自らの進路実現に向けて適切な情報を提供する。	進路指導 学習指導	土曜補習は全学年において、希望制として主体的に取り組む姿勢を大切に、学習への意欲向上を促した。	B	大学見学やオープンキャンパス等の実体験の機会を増やし、自分事として進路に向き合う時間を増やす。	B
		進路探究や日本文化、歴史に対する体験的学習の実践を支援する。	2学年	研修旅行では学校見学、歴史・名所探訪、都市文化生活体験など広範囲にわたりバランスよく研修できた。	A	事前学習の時間の確保は年度当初に多めに設定する。コロナ対策は考えることをやりつくしても十分すぎることはない。事後の対応が大切。	
		英語スピーチコンテストを通して、相手にわかりやすく効果的に伝わるよう、自分の考えを表現する能力を身につけられるよう支援する。	英語科	スライド資料を使いつつも、できる限り英語で伝えられるよう、文章構成や英語表現について指導を行った。	B	「自分の考え」を持つことを苦手とする生徒が多く見られたため、次年度はトピック選定や思考整理から見直す必要がある。	
		海外留学生との交流を通し、国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解する。	教務	9月より交換留学生在籍しており、交流ができた。また、オーストリア・インスブルック市の高校との交流計画の準備を進めている。	A	留学生在が所属するHR、学年での交流はあったが、学校全体としての交流にはならなかった。交流する機会を作る必要がある。	
		故郷の山に登り、故郷の山を知ることで故郷を愛する心を育む。また友と助け合い励まし合いながら山に登ることで、仲間意識を高める。	登山委員会	3年ぶりの全校登山を実施できた。生徒の感想を見ても、左記の目標を概ね達成できたものと考えている。	A	安全管理の徹底 今の生徒の状況(体力面・精神面)に応じたコースの設定	
		アジアアフリカ難民支援運動を通して、地域の課題や国際的な課題について考える支援をする。	各学年	PR、物資回収、バザー、送付など意欲的に取り組み、意義あるものとなった。講演会が中止になり残念である。	B	事前事後学習を深める。活動における安全性を確保する。地域への理解の浸透に課題。活動そのものの意義を問い直す時期にきているか。	
		探究活動を通じた主体的な学習によって、実社会への関心を深める機会を支援する。	学習指導	コロナ禍の影響がある中で、テーマの設定から発表までの学習活動を可能な範囲で実施し、実社会への関心を高めることができた。	B	他学年を含めた他者の探究活動にも関心をもつ機会を設けることによって、相互に刺激を与えあうことを通してより効果的な学習活動につなげていきたい。	
	重点目標②	校内の情報センターとして、教科横断的・協働的に展開される生徒の学習支援をする。	図書館	様々な情報を多角的に発信し、探究活動の支援などを行うことができた。	A	図書館の相互貸借、レファレンス機能などを広く知ってもらい、活用できるための工夫をしたい。	B
		思考力・判断力・表現力を育てるために主体的・対話的な学習活動の研究、推進をする。	各教科	グループでの討論を行い、能動的な学習を行った。またICT機器を適宜活用することができた。	A	主体的、対話的な学習において、限られた時間の中で知識を保障できるか。グループ活動では個人の達成度がわかりづらいのでプリント(レポート)も併用する	
		生徒一人ひとりが社会との関わりを意識した進路目標を設定し、その実現に向けて取り組みを支援する。	各教科 各学年	面談を通じ個人の進路目標の状況を把握し、目標達成に向けて助言できた。	B	多様化する進路にどう対処していくかが課題であり、全ての教育活動が生徒の進路目標の設定、実現への手掛かりになるよう学校として指導プログラムを設定したい。	

		具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導 重点目標②	ICT機器を利用した進路情報の提供を心掛け、進路に関するデータの分析や集計に有効に利用する。	進路指導 学習指導	Googleフォームでの進路希望調査を実施するなど、積極的にICT機器の活用を心掛けた。	B	情報を共有する手段として、メールやプリント、Webなど多様なツールを利用して、情報発信に心掛ける。	
		探究的な学習を通じて主体的に取り組む姿勢を養い、自らの進路実現に役立てる。		特に推薦入試において、生徒自身が行った探究活動について、しっかりと理解し表現できていることは、進路を実現していく上で大きな貢献になっていると感じる。	B	学年間の交流を増やすことによって他者の探究活動を見聞きする機会を増やし、自身の進路実現における選択の幅を広げる。	
教育活動	生徒会活動 重点目標③	学校行事を通して、他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。	各学年	文化祭、研修旅行、探究的な学習の時間(グループ活動)など、行事を通じて概ね達成できた。	A	コロナ禍にあってどのように活動に向き合うか。活動に消極的な生徒への対応。	B
		クラブ、委員会、文化祭活動を通して、他者への理解を深め、主体的に活動できるよう支援する。	生徒会	コロナウイルス感染対策を行い綿密に話し合い諸行事を開催できた。	A	コロナ禍でも特別活動の時間を確保していきたい。	
		思いやりを持って他者と関わったり情報を発信したり出来る心の豊かさを育てる。	各学年	日々の日課や行事を通して育んだ。SNSに関するトラブルは皆無ではないが、その都度適切に対応することができた。	B	教員と生徒の相互理解のため、意志の疎通をどのように図るか。SNSの利用が生徒間で加速度的に浸透し、功罪両面で影響が大きくなっていることを実感。	
		生徒の状況をきめ細やかに把握して対処する。また、生徒の人権意識の向上を図る。	各学年 生徒相談	生徒に寄り添い対処してきた。また教員間の連携を心掛けた。人権意識向上のため人権啓発映画を上映した。	B	生徒と向き合う時間が少ない。SOSを発しない生徒の状況をいかに把握するか。生徒の様子、保護者の関わりを職員間で定期的に共有する必要がある。	
学校運営	安心安全な学校	自他を大切に、主体的に安心・安全・健康的な生活を送ることが出来る生徒を育む。	各学年	コロナ禍にあって、感染の拡大防止に努め、安心安全な学校生活を維持することができているのではないかな。	A	健康を害する生徒が多くなってきているので、対策が必要。情報通信システムを活用した効率的な健康調査を行うべき。	
		いじめの無い、安心安全な学校生活を過ごせるよう関係部署との連携した対応を行う。	生徒指導	目立った問題行動は少なかった。学校生活アンケートは年1回になってしまったが、安全に学校生活を過ごすことができた。	B	スマホの取り扱い、使用等で課題は見受けられる。関係部署との連携を図っていきたい。	
		不登校や特別支援の必要な生徒へ対応すると共に、職員への理解を深めるために職員研修を実施する。	生徒相談	SCとのカウンセリングを計画し、担任や学年会との情報の共有に努めた。	A	職員研修は現在計画中である。早期に計画をたて、研修が活かされるよう年度内の実施を目指す。	
学校運営	その他	非違行為防止に対する意識を高めるため職員研修を行う。	コンプライアンス委員会	職員会ごとに非違行為防止について、職員の意識の向上を図る話を校長より行った。複数回の事例検討による職員研修により、職員一人一人が自分のこととして捉えることができた。	B	風通しの良い職場環境を心掛け、非違行為防止への意識をさらに高めていきたい。	B
		3つの方針を通して、本校のあるべき姿を明確にし、魅力ある学校作りを推進する。	ビジョン委員会	進路指導・学習指導を主軸とした年間計画を明確化することで、本校のあるべき姿を検討することができた。	B	定期的に委員会を開催し、各主任間の連携を密にすることで、魅力ある学校づくりに向けて、学校全体がベクトルをそろえて教育活動を進める。	
		職員相互に授業見学をし、ICT(BYODを含む)の活用方法を研究する。	教務係	8月、11月に校内授業見学期間を設定し、延べ53名の先生が授業見学を行った。	A	生徒がICTを活用して学習する機会を増やす必要がある。	

達成度 100%:A 80%:B 50%:C 30%:D 20%未満:E

評価は職員による5段階評価の平均値より算出。

4.5以上:A 4.0以上:B 3.0以上:C 2.5以上:D 2.0未満:E